



牛田 智大 Tomoharu Ushida

1999年いわき市生まれ。父親の転勤に伴い、生後すぐ上海に移り6歳まで育つ。3歳頃よりピアノを始め、2012年(12歳)、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。同年3月、クラシックの日本人ピアニストとして最年少(12歳)でユニバーサルミュージックよりCDデビュー。以降、ベスト盤を含む9枚のCDをリリース。

これまでに国内外の著名指揮者やオーケストラと共演を重ね、全国各地の演奏会で活躍。2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せて聴衆賞およびワルシャワ市長賞を受賞。2019年3月には出光音楽賞を受賞。



藤田 真央 Mao Fujita

2017年、弱冠18歳で第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「現代曲賞」の特別賞を受賞。

2019年チャイコフスキー国際コンクールで第2位を受賞。ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ラ・ロック＝ダンテロン国際ピアノフェスティバル、ツィンダリ音楽祭など主要な音楽祭へ定期的に出演。2023年1月カーネギー・ホールにてホール主催のソロ・リサイタルデビューを果たす。2021年11月ソニークラシカル・インターナショナルと専属レコーディングのマルチアルバム契約を締結。2021年ヴェルビエ音楽祭でのモーツァルト:ピアノソナタ全曲演奏が好評を博し、2022年10月モーツァルト:ピアノソナタ全曲集をリリース。

©Dovile Sermokas



ヴァディム・ホロデンコ Vadym Kholodenko

1986年ウクライナ、キエフ生まれ。2010年第4回仙台国際音楽コンクール優勝。2011年シュベルト国際ピアノコンクール優勝。2013年にはヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで最優秀室内楽賞と最優秀新作賞もさらい、圧倒的な優勝を果たす。直後の2014年に、フォート・ワース交響楽団にとっては初の「パートナー・アーティスト」の地位を与えられた。これまでにマリンスキー劇場管、ルクセンブルク・フィルハーモニー管、ノルウェー放送管、プラハ響、スペイン放送管などヨーロッパの主要オーケストラと共演を重ねるほか、中国、日本、シンガポール、マレーシア、南米など世界各地でリサイタル、オーケストラのソリストとしてツアーを行い、「最も才能のある現世代のピアニストの一人」との評価を得ている。



ジョナタン・フルネル Jonathan Fournel

2021年にエリザベート王妃国際コンクールに優勝し、アムステルダム・コンセルトヘボウ、フィラルモニー・ド・パリ、ウィーン・コンツェルトハウスなどの主要ホールや、ヴェルビエやルールなど著名音楽祭などに出演。ドゥヌーヴ、ダウスゴーらの指揮のもとベルギー国立管、ロイヤル・スコティッシュ管、パリ室内管などと演奏するほか、室内楽でもデュメイやG.カプソン、モディリアーニ弦楽四重奏団などと共演している。パリのADAMIからクラシック新人賞2017を送られた。

モーツァルト、ショパン、ブラームスに愛情を注ぐほか、アデスやバクリら同時代の音楽にも関心を寄せて組むプログラムは幅広い。録音では2021年に『ブラームス:ソナタ第3番&ヘンデル変奏曲』をリリース。



イム・ユンチャン Yunchan Lim

2022年第16回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて、史上最年少(18歳)でゴールド・メダルを受賞、併せて聴衆賞、最優秀新曲演奏賞を受賞。

韓国の始興市生まれ。現在、韓国芸術総合学校に在籍。7歳でピアノを始め、翌年にソウル・アーツ・センターの音楽アカデミーに入学。13歳で韓国芸術英才教育院のオーディションに合格し、教師・指導者のソン・ミンスに出会う。翌年2018年、若いピアニストのためのクリーブランド国際ピアノコンクールで2位及びショパン特別賞を受賞。同年のクーバー国際コンクールでは最少年の参加者として注目を集め、3位と聴衆賞を獲得。

クリーブランド管弦楽団との共演の機会を提供される。2019年には最年少の15歳で韓国のユン・イサン国際コンクールで優勝及び二つの特別賞を受賞。

2022-2023年のクライバーン優勝者ツアーでは4大陸への訪問を予定。2022年12月にはサントリーホールにて日本デビューを果たし、2023年2月にはミハイル・ブレトニョフ指揮 東京フィルハーモニー交響楽団の定期公演にも出演した。

ミュゼガ川崎で聴く
ピアノリサイタル・シリーズ

夜ピアノ